

01



三木北新聞

～最後までより三木北らしく～



発行日
2026年
7月22日

1 学期終業式・全校集会

7月17日（金）、第1学期終業式が青志館で行われました。式では、校長先生からの講話が行われ、生徒は真剣な面持ちで向かいました。

先立って7月16日（木）に行われた全校集会では、生徒指導部長の先生からの講話があり、高校生活最後の夏休みと、その先にある2学期に向けた心構えについてお話いただきました。

令和8年度 1 学期終業式 校長講話

明日から長い夏季休業になります。42回生の皆さんにとっては、充実した1学期を過ごすことができたのではないのでしょうか。

青志祭“最”は最後の一学年だけの運営になりましたが、生徒の皆さんは、お客さんのためにホスピタリティを発揮してくれました。皆さんが一生懸命に取り組む姿はとても感動しました。

また、今学期は、生徒の皆さんが夏季の学校生活にふさわしい服装を検討した結果、北高ポロシャツが完成しました。これまで生徒の皆さんから意見が出ていた夏季の服装について、この度検討委員を募り、生徒中心にデザインを決め、着用のルールも作りました。皆さんが学校生活に関わることを決める主体として活躍してくれたことをとても嬉しく思っています。

そして、青志祭当日には学校運営協議会が開催され、生徒会役員が出席してくれました。会議では、生徒を代表して「青志祭で生徒の考えをどのように反映させたか」、「最後の一年、北高が地域でどのように貢献したいか」、「ポロシャツ完成まで生徒の委員会がどのように取り組んだのか」などを語ってくれました。

出席された委員の方は、生徒の声を生で聞くことが出来たことの喜びだけでなく、学校で掲げてきた「最後まで三木北らしく」という思いを、生徒を代表して、自らの言葉でしっかりと述べてくれたことに感動しておられました。

皆さんにはいつもお話していますが、「自分で考え、決定し、行動する」ことは、これだけ生成AIが浸透した社会ではより大切になります。

3月の終業式で紹介した『モチベーション脳』という本の「誰かが押してくれる“やる気スイッチ”はない」という話を覚えていますか？自分から動く“能動的な行動”がないと脳はやる気が出ない、「まず行動を起こすこと」の大切さを話しました。

4月にお招きした中山芳一先生のご講演における「非認知能力」の話は、何も難しい話ではありません。皆さんが勉強以外のことでも自分が頑張ってきたことは学習にも活きる（「学習転移」）ということでしたね。諦めずに行動を継続すれば、少しずつ良い方向に向かいます。

先日の部活動引退式では、各部の代表からは、「協力」「継続」「感謝」「コミュニケーションの大切さ」が語られ、他校生が経験しなかった不自由な環境を克服し、前向きな気持ちで頑張り抜いた頼もしい姿を感じることが出来ました。

皆さんは、これまでの取組により、「自分で考え、決定し、行動する」力は**責任感、粘り強さ、協調性**が加わり、トータルで人生を切り拓く大きな力に成長していると思います。

さて、図書室には空調が効いた立派な自習空間が整備されました。昨日の全校集会では校内自習で頑張った人の表彰がありました。学年の先生からは黙々と学習をする生徒が増えてきていると聞いています。

先生方も校訓の「自学」について、生徒たちが“やらされる”のではなく、“自発的”に取り組むよう、今年は重点的に取り組んでいます（探究発表会では宿題の効果について研究していた班があり、自分のために取り組む意識の大切さに触れていて、興味深く聞かせてもらいました）。

皆さんも暑い夏ですが、体に気をつけて、各自の学びを前進させ、希望する進路の実現のために頑張っていきましょう。

学校設定科目「環境の科学」 取り組みの紹介

本校で開講されている3年選択科目「環境の科学」も、ついにラストイヤーを迎えます。昨年度末からスタートした、42回生による「環境の科学」の取り組みについて、ご紹介します。

授業での活動



土づくり

- ・肥料を混ぜ込む
- ・くわで土を返す
- ・畝^{うね}を形作る



育苗

- ・プランターや畝に種を植える
- ・芽が出るまで育てる



定植

- ・プランターから苗を取り出す
- ・畝に植え付ける



日々の手入れ

- ・成長に合わせた適切な水やり
- ・間引きと追肥
- ・害虫や暴風対策



収穫

- ・根から引き抜く
- ・茎から切り離す
- ・土や汚れを洗浄



出荷

- ・束作り ・袋詰め
- ・三木市役所や青山公民館で配布

生徒の「学び」の場として

環境の科学は、身の回りの環境を体験を通じて知り、より広い環境へと向き合うきっかけを作るというだけに終わりません。活動を自身で振り返り、その中で起きた自分の変化へ目を向けることにより、自分自身の成長へと繋げる活動も進めています。

この「自学」に向かう取り組みについて、担当教員の方に詳しくお聞きしました。

○リフレクションシート

野菜栽培の各活動後にリフレクションシートを用いて活動の振り返りを行っています。予測困難な時代において、考え行動できる力の育成のために、主体的に学びを深めるプロセスとして教育活動に取り入れています。

- ・生徒に提示している項目

①活動の内容 ②活動を通じた気づきや考えの変化 ③次はこうしよう！

- ・背景となる知見「AARサイクル」

Anticipation（見通し）→ Action（行動）→ Reflection（振り返り）

こうした活動の中で、特に「学び」が表出した生徒の記載の一例を以下に挙げます。

- ・小学生の頃に自宅で野菜を育てていたが、今回の授業を通してその背景を知ることができた。

（過去を振り返り、比較・検討する力）

- ・授業中に野菜を観察しているときに、虫が多い野菜と少ない野菜があることが気になり、授業後に調べてみると、その違いが明らかになった。

（学びを自ら深める力）

- ・実際に作業をしてみると、暑い日差しの中で同じ姿勢をとりながら作業をすることがすごく大変で、自分たちが食べている野菜はこういった苦勞を経て作られていることに気付いた。（物事の背景を考える力）

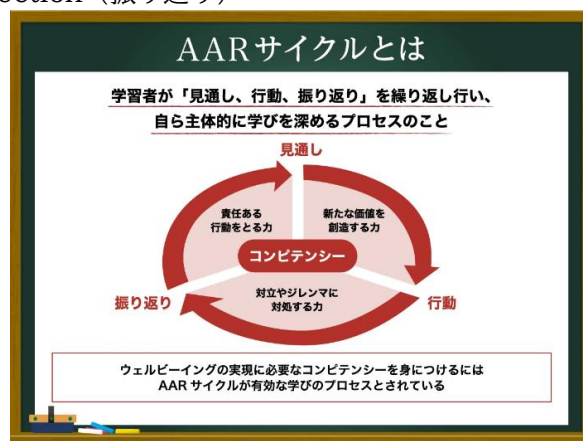
- ・授業中の「なぜ土に石灰を混ぜるのか」という質問に対して、「土の改良のため」とは答えられるが、その理由とは聞かれると答えられず、詳しく調べなければならないと思った。

（自分を俯瞰的に捉え、理解度を整理する力）

- ・今回の授業では、間引く意味等をよく考えずに抜いてしまい後悔した。次はどのようにすればいいか、あらかじめ考えてから取り組みたい。（見通しを立てて取り組む力）

- ・畝作りという作業を〇〇さんとともに行う中で、自分の考えていることを伝える大切さと大変さを感じた。次は相手と積極的に相談しながら取り組みたい。（共感性や社交性の高まり）

野菜を育てるという活動の中にも、高校生が行うからこそその気づきや学びがたくさんあります。そして子どもたちはそれをしっかりと経験しています。



画像：「AAR サイクルとは？PDCA サイクルとの違いや指導案をわかりやすく解説」、朝日新聞社 先生コネクト、<https://www.asahi.com/sensei-connect/articles/15702503>, 2025 年 4 月 24 日(2026 年 7 月 1 日閲覧)。

総合的な探究の時間 校内発表会

7月16日(木)に、2年次から継続してきた探究活動の校内発表会が実施されました。ここでは、校内発表会の様子を、生徒による発表内容を中心にご紹介します。

「地域貢献」受講者発表

探究発表の前に、来年2月の兵庫県探究活動研究会へ三木北高校を代表して参加する「地域貢献」受講生による基調発表を行いました。今年度も地域貢献では、三木市で活動する「高齢者ファミリーサポートセンター」との共同授業が行われました。この活動を踏まえ、会員の高齢化と新規会員の減少が続く同事業の継続と活性化のために、どうすれば若者の会員増加を図れるかを中心に研究発表を行いました。

センターの会員として活動する方への聴き取りや実地での体験活動に加え、三木市の人口動態やファミリーサポートセンターの会員データなどを組み合わせながら、組織の高齢化対策と新規会員参入の手法として「知る・行動する・広める」の3本柱による解決を提唱しました。自分たちだけで解決に取り組むのではなく、市や家族を巻き込んだ「行動」によって活動の輪を「広げる」ことを進め、また地域課題を自分事と考えて行動することの重要性を知らせる研究発表となりました。



全校生徒発表

その後、42回生全員による探究発表を行いました。97名による計25グループが、各自の疑問や興味を下地にテーマを組み、アンケート調査などを通じて得た情報を基に考察した結果について発表しました。ここではその発表の一部を紹介します。



テーマ「読書をする人を増やす手法」(最優秀賞受賞)

スマートフォンの広がりと共に問題視されがちな読書離れに向き合った研究活動を展開しました。まず生徒や教員、保護者へのアンケート調査から、多くの人が読書に感じる魅力を「語彙力」であると考え、生徒対象に、語学力を見るワークシートを実施しました。その結果、生徒たちは未知の語句であっても、文中であれば文脈から意味を推測することができるということが分かり、そのことが読書に対する意識の変化につながった、と考察する内容でした。

発表を聞いた教員からは、読書に対する意識が前向きになった生徒のその後の読書活動の様子に関する調査など、今後の更なる探究へ向けた提案がありました。



テーマ「食品ロス削減のためのマーケティング戦略」(優秀賞受賞)

社会問題の1つである食品ロスについて、「企業や個人は解決のためにどのような手法を採っているか」に注目して研究を行いました。学校に近いイオン三木青山店へのインタビューを通じ、販売店では販売データの分析から商品の割引タイミングを計るという策が取られていることが判明しました。

一方、生徒への聴き取りでは、「無駄に買わない」や「残さない」といった、食品それ自体への意識が強いことも判明し、食品の消費期限やそれに関わる店舗側の割引制度への注目度が低いという点に注目しました。両者の工夫が組み合わさることが更なる食品ロス削減へと繋がるのでは、という新たな課題点を引き出す探究となりました。



テーマ「エアコンの効率的な設定」(優秀賞受賞)

今や、エアコンは日本の生活の必需品となっています。そのエアコンを、どのように使用すれば「効率的」にできるのかを、文献と計算を中心に研究しました。

「断熱材を使用し、一般に世間で推奨される26度から28度で使うことが最も効率的である」という仮説のもと、大学教員の提案する電力消費推定量の計算式を用いて設定温度と稼働期間を定めて計算を行い、室内温度と設定温度とを可能な限り近づけるよう運転させることが効率的な稼働に繋がる、と結論付けました。また、断熱材を使用して目張りをすることや、パソコンやテレビのような熱を発する機器の使用を工夫することで、室内の熱感を抑えることが期待できるのではないかと推察しました。



全グループの探究発表は、発表を聞いた生徒による相互評価によって点数付けされ、特に優れた探究活動を行った班が、最優秀賞・優秀賞・特別賞として表彰されました。特別賞には、保育士による不適切保育の原因について、実際に勤務する保育教諭へのアンケート調査や園長へのインタビューから考察を行った班が受賞しました。

最後に、本校の元校長でもある特別講師の藤井宏氏より全体の講評を頂きました。班毎に特色のある様々な探究テーマで実施したことを評価しつつ、結果を出すだけで終わらせず今後に向けた見通しを班員で議論し、意見を交わしあうことにこそ「探究」の意義がある。そのため、この先の専門学校や大学、会社などの場で行われるグループセッションに向けて、第一声で聴衆を惹き止めるテーマ設定や発表技術の成長に期待する、という激励の言葉で締め括られました。



進路指導部だより

いよいよ3年生、受験本番の年がやってきました。これまで三木北高校で積み上げてきた教科・進路学習と自己探究の成果を発揮するときです。各々が目指す姿に向かって、最後の仕上げをしていきましょう。7月14日（火）に、全生徒対象の入試手続き説明会を実施しましたが、再度入試に関する流れや手続き、心構えについてまとめておきます

1. 受験校を入念に検討し、担任・保護者等とよく相談の上、受験校を決定する。
2. 入学者選抜要項を保護者等と確認する。
3. 出願を決めたら担任へ報告し、調査書交付願・受験届を記入する。
(出願開始日の10日前までには記入、確認してもらうこと。)
4. 願書のほかに、志望理由書等必要な書類がたくさんあるので、早めの準備を心掛ける。
5. 入学検定料の振り込み方法を確認し、期限を守って振り込む。
6. 必要書類を揃えて、必ず簡易書留で郵送する。(「消印有効」・「必着」等の指定に注意する。)
7. 受験票の内容を確認する。Web出願の場合は、確認後、必ず印刷しておく。
8. 受験後は、受験レポートを提出し、合否が判明したらすぐに担任へ報告する。
9. 合格した場合、届いた書類を丁寧に確認し、手続きや入学金等の振り込みを確実に行う。
10. 入学するまでの課題が与えられる場合があるので、確認し、あればしっかりと取り組み、期限内に提出すること。

〈保護者等の皆様へ〉

例年発生するケースとして、手続き上の漏れにより受験が不可能になるものがあります。「書類の準備開始が遅くなって、提出期限までに書類がそろわなかった」、「検定料の振り込みがされておらず、当日に会場で受験資格がないと言われた」など、内容は多岐にわたります。

もちろん三木北高校では、教員一丸となって生徒の進路選択や実現に向けたサポートを進めて参りますが、最終的に手続きを行っていただくのは、どうしてもご家庭になります。生徒本人や保護者等の皆様を含め、ご家庭内での情報共有や相談などを、よろしくお願いいたします。

コラム 自分でやらない人は何をやっても楽しくない

あなたの人生は生き生きとしていますか？

この言葉にドキッとしたあなた。今が自分を変えるチャンスです。そのキーワードは、「内発的動機づけ」。人生を生き生きと過ごすために、内発的動機づけのお話をしておきます。

内発的動機づけとは、内面に湧き起こった興味や関心、意欲によって動機づけられている状態のことです。やらされていることや、報酬のためだけに行動することってしんどくないですか？自分の内側から湧き出てくる何か、それにあなたの人生を豊かにするヒントが隠れています。気になった人はぜひ調べてみてください。

さて、受験生諸君。受験にもこの内発的動機づけが大切です。言い換えれば、自分の足で走りなさい、ということです。特に、この夏休みは自律し取り組めるか、それにかかっています。最終的に受験で成功する人は、自律した夏休みを過ごしています。そんな自分になってください。

それでは末尾に、不合格になった人の傾向を載せておきます。参考にしてください。

- | | |
|------------------------|-----------------------|
| ① 夏休みに基礎基本、苦手克服に取り組まない | ⑥ 無計画に取り組む |
| ② 生活リズムを乱す | ⑦ 勉強のできる環境を整えない |
| ③ 量をこなせない | ⑧ 解答解説を読み込めない |
| ④ わかった気になっている自分に気づかない | ⑨ インプットばかりしてアウトプットしない |
| ⑤ スマホを手放せない | ⑩ 目標がない |



画像：「内発的動機づけとは？外発的動機づけとの違いを具体例を交えて解説」、ツギノジダイ、<https://smbiz.asahi.com/article/15215816>、2026年6月8日閲覧。

ご依頼「服のチカラ」プロジェクトについて

今年も10月中旬頃より、子ども服の回収を行います。詳細は後日お知らせします。回収は生徒たちが行いますので、お知り合いの方にもお声がけしていただければ助かります。ご協力よろしくお願いいたします。

